

いしづち

愛媛労災病院広報誌第25巻第3号

（通巻第113号）

2025年7月5日発行

発行人：院長 木戸健司

理 念

当院は働く人々のために、そして
地域の人々のために信頼される
医療を目指します

基本方針

1. 地域に密着した医療の確立
2. 安全かつ良質な医療の提供
3. 勤労者医療の推進

当院では、医の倫理と病院の理念に基づいた医療を積極的に推進していくため、患者さんの基本的な『権利と責務』を、以下のよう宣言します。

【患者さんの権利】

- 1) 人としての尊厳を保ちながら、良質な医療を受ける権利
- 2) 十分な説明と情報提供を受け、自らの意思で治療法の決定やセカンドオピニオンを希望する権利
- 3) 個人に関するプライバシーを保護される権利
- 4) 性別、年齢や障がいの状態によって差別されることなく、診療を受けることができる権利

【患者さんの責務】

- 1) 疾病や医療を理解するよう努力する義務
- 2) 医療に積極的に取り組む義務
- 3) 快適な医療環境づくりに協力する義務

ふれあい看護週間行事

看護師長 土 肥 友 里

5月12日は、近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日です。彼女の功績を称え、国際看護師協会は、この日を『看護の日』と定めています。そして5月12日を含む1週間を『看護週間』とし“看護の心をみんなの心に”というメインテーマのもと、気軽に看護に触れる機会として、全国で看護に関する様々なイベントを実施しています。当院でも、看護部・病院の様々な職種の方の活動を紹介するパネルを展示し、5月15日(木)には、ふれあい看護週間イベントを開催しました。『生活習慣病予防に関する展示』『手洗いチェッカーを用いた洗い残しの確認』『体組成測定』などを行い、外来通院している患者さんやご家族の方にお越しいただきました。イベントを通して、日頃の自分自身の生活習慣を見直すきっかけになったと感じています。今後も地域の皆さまのお役に立てる様々な取り組みをしていきたいと思っています。7月18日(金)には、高校生を対象とした『ふれあい看護体験』を予定しています。



ふれあい看護週間行事	1	訪問看護ステーションの紹介	3
内視鏡とAIのこれから	2	新規採用医師の紹介	4
新規給食委託会社の紹介	3	新規採用・転任者集合写真	4

内視鏡とAIのこれから

消化器内科 副部長 國 分 勝 仁

近年、医療分野におけるAI（人工知能）の活用が急速に進んでおり、内視鏡診療もその例外ではありません。特に消化管内視鏡においては、AIの導入が診断支援や病変検出の精度向上に寄与しており、臨床現場の大きな変革をもたらしつつあります。

AIを用いた内視鏡診断支援の代表例としては、胃癌や大腸ポリープのリアルタイム検出があります。画像認識技術の発展により、内視鏡画像を解析し、微小な病変を高感度で検出するAIが登場しています。特に大腸ポリープに関しては、AIがリアルタイムに病変を囲むように表示し、内視鏡医に注意喚起することで、見逃しのリスクを低減できるとされています。また、深層学習を用いたAIは、腫瘍と非腫瘍の鑑別にも一定の成績を示しており、診断の客観性と再現性の向上に貢献しています。

とはいえ、AIはあくまで「支援」であり、最終的な判断や処置は医師に委ねられます。現時点では、AIは限られた病変や特定の状況下での利用にとどまっており、炎症性病変や希少疾患に対する判別能力は発展途上です。さらに、AIによる診断結果をどのように医師が解釈し、責任を持って説明・対応するかという倫理的な側面も今後の重要な課題です。

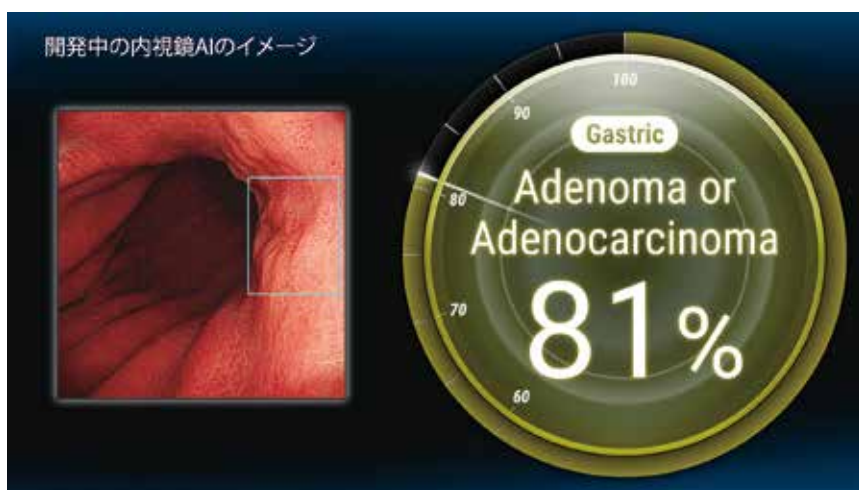
個人的には、AIは若手医師や経験の浅い術者にとって大きな助けとなる可能性があると感じています。研修医や若手内視鏡医がAIを用いることで、より早期に病変の特徴を学び、診断能力を高めることができるでしょう。また、ベテランの医師にとっても、疲労時や注意力が低下した状況でAIが「もう一つの目」として働くことで、安全性の向上が期待されます。

将来的には、病変の検出のみならず、組織型の予測や切除後の再発リスク評価、さらには適応の判定にまでAIが関与するようになるかもしれません。さらに、AIとロボティック内視鏡の融合により、より精緻で自動化された手技が実現する可能性もあります。

内視鏡医としてAIとどう向き合うべきか。私は、「AIに代替される医師」ではなく、「AIを使いこなせる医師」であるべきだと考えています。技術の進化に柔軟に対応しつつ、医療の本質である患者との信頼関係や対話を大切にし、AIと人間の力を融合させたより良い医療の実現を目指していきたいと思います。

参考文献：

https://www.iryokiki-navi.com/cms/wp-content/uploads/2023/09/5352_2.1.png



Gastric: 胃
Adenoma: 腺腫
Adenocarcinoma: がん

新規給食委託会社の紹介

栄養管理部 大西 邦枝

当院の入院患者さんへの給食提供業務について、5月1日より新たに日清医療食品株式会社へ委託することとなりました。治療を目的とした安心安全でおいしい食事を提供できるよう、病院及び委託会社スタッフ一同、協同して努めてまいります。



【日清医療食品株式会社より一言】

この度は2025年5月より愛媛労災病院様における食事サービス業務の機会を与えて頂きましたことに厚く御礼申し上げます。

私たち日清医療食品株式会社は、食を通じて日本の医療福祉サービスの質の向上に貢献することを経営理念として事業を営み、2022年に創業50年を迎えました。

現在も新居浜地区で病院様2件、施設様で5件受託させて頂いており、地域の医療介護福祉施設で食事提供サービスを行っております。

これからも創業時の原点を忘れることなく、お客様に喜びと感動を感じて頂ける食事サービスを提供してまいります。今後とも皆様よりのご愛顧、ご指導を賜り弊社の食事サービス向上に努めたく考えております。何卒、御高配賜ります様、宜しくお願い申し上げます。

訪問看護ステーションの紹介

訪問看護ステーション 星 川 みどり

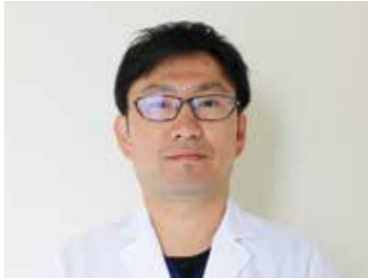
愛媛労災病院訪問看護ステーションは、このたび開設から3年目を迎えることができました。この2年間、地域と共に歩み、思いやりのある看護を提供するために、チーム一丸となって活動してきました。

このたび、当ステーションでは、令和7年3月より新たに「訪問リハビリ」のサービスを開始しました。理学療法士・作業療法士などの専門職が自宅を訪問し、利用者一人ひとりの生活環境や希望に合わせたリハビリを提供しています。住み慣れた自宅で、安心して日常生活を送っていただけるよう、看護と連携しながら、機能維持・回復のサポートをさせていただきます、利用者の方に大変喜ばれています。

また、当院歯科との連携体制を整え、口腔ケア・嚥下障害の早期発見・誤嚥性肺炎の予

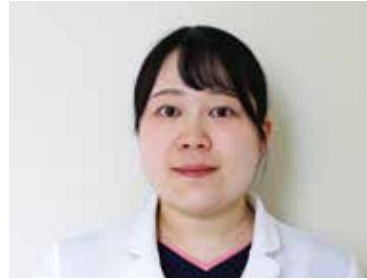
防に力を入れています。在宅で療養されている方にとって、「食べる」「話す」「呼吸する」ことは、生活の質（QOL）に大きく関わり、その機能を維持するために歯科との連携を強化し、訪問診療へとつなぐ架け橋にもなっています。利用者や家族の方に満足していただけるようこれからも頑張っていきたいと思います。





国分 勝仁
(こくぶ まさひと)

- 1) 診療科：消化器内科
- 2) 経験年数（医師免許取得後）：12年
- 3) 趣味：youtubeのサッカー動画
- 4) コメント：このたび4月より着任いたしました消化器内科の国分 勝仁（こくぶ まさひと）と申します。これまで松山を中心に、消化器診療や内視鏡検査・治療に携わってまいりました。現在、科内の常勤医は私一人のため、皆さまにはご不便をおかけすることもあるかと思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。



佐伯 ゆい
(さいき ゆい)

- 1) 診療科：内科
- 2) 経験年数（医師免許取得後）：4年
- 3) 趣味：家具屋さんでウィンドウショッピング
- 4) コメント：今年度から勤務させていただいています。糖尿病などの生活習慣病を中心に診療させていただいています。精一杯がんばります。よろしくお願いいたします。

新規採用・転任者集合写真



今年度より新たに看護副部長、薬剤部長、中央放射線部長を迎え、医師、看護師、事務職員にも新しいメンバーが加わりました。

また、2025年5月より当院の「基本方針」及び「患者さんの権利と責務」が変更になりました。これまで以上に、地域に密着した医療を推進し、患者さんに寄り添った診療を目指してまいります。今後とも愛媛労災病院をよろしくお願いいたします。

広報誌編集メンバー

委員長：福井副院長

委員：篠原放射線科部長、岳田看護副部長、石原看護師長、高橋看護師長補佐、大成主任薬剤師、小川主任作業療法士、後藤診療放射線技師、井上臨床検査技師、今村管理栄養士、稲富総務課長、岸本会計課員、那須医事課員、藤岡総務課員、中嶋総務課員、池上総務課員